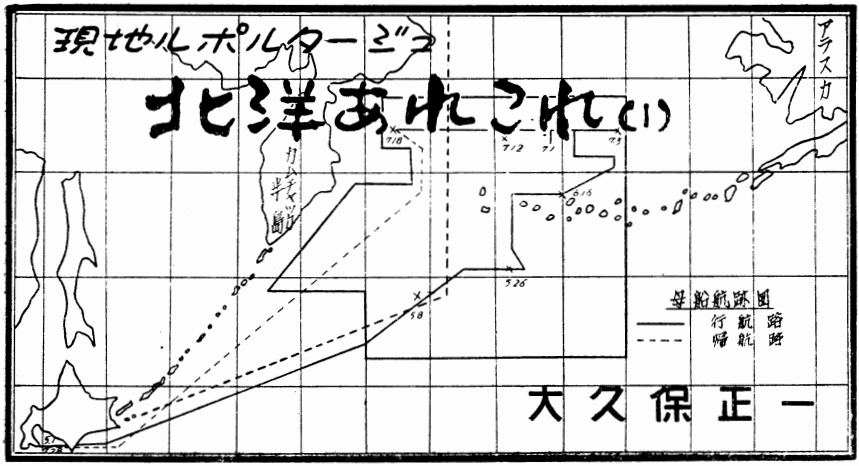


本年度北洋母船式鮭鱒漁業の母船に乗船する機会を得まして90日間の船上旅行に出かけましたが，船旅行といつても途中寄港するわけでもなく，せいぜいエンジンストップして遠くにアリューシャンの島々を眺めながら漂泊するといつた具合の，甚だ物足りない旅行でありました。無事函館に入港してヤレヤレという所で，現地の模様を旅行案内といつた，ごく軽い気分で筆を取りましたが，いざ原稿を書き出して見たものの，夏の暑さと北洋ボケが重さなつたせいか，さつぱり筆が進まない，万事この調子なので，この先が思いやられますが，雑文を皆さんのお眼々をわずらわしたいと思います。

なお，北洋での鮭鱒に関するデーターをも取る事が出来ましたが，何れデーターの整理次第紙上に掲載する事にして今回は肩苦しい問題をぬきにして筆を進めて行き度いと思います。

出　港……

日ソ漁業交渉も，もみにもんだ50日間，問題の漁獲量も岸首相とデヴオンヤン大使との政治接渉によつて4月に芽出度く12万屯の線で落ちついた。出漁予定日を間近にひかえて，母船独航船の漁獲割当や母船買上げ価格の問題等，東京でまとめきれなく，遂に魚価問題については，舞台を函館に移す等出漁前日迄ゴタゴタして，一時は5月1日の出港も危ぶまれた程であつたが，どうやら5月1日の出港も29日決定した。

集結港函館においては，早速所属独航船の予備網の封印や，監督官の打合せ等慌ただしいうちに，出港の日を迎えた。今日は朝から母船内は乗組員の見送りの家族でごつた返している。今日で3カ月日本の山々ともお別れかと思えば，いささかセンチメンタルな気

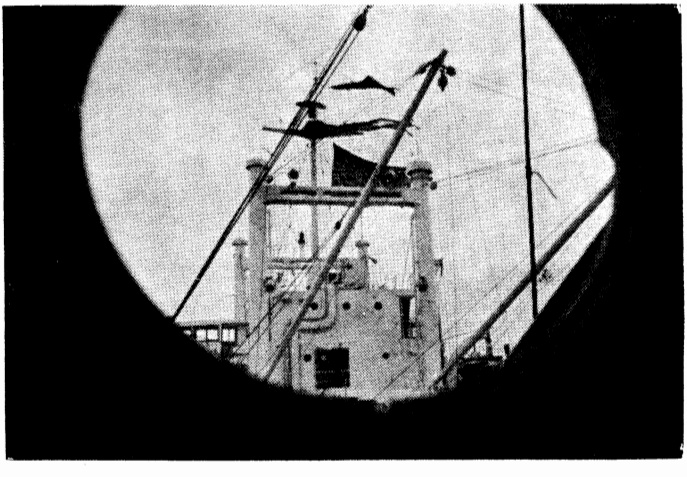
分におそわれる，午前9時30分第一船が独航船と共に出航した。本船は10時最後の出港のパーテイをサロンで行つた。社長の力強い壮行の挨拶と船団長の宣誓が終つた後，祝いの乾杯し最後にI丸出航の万歳を三唱した。その後，船内の見送人を下船させて間もなく，母船独航船が吹き鳴らす汽笛や大漁旗に送られて勇躍壮途についた。函館の港を出ると船はNE71°の方向にむかつて針路を取る母船の後方には独航船が船団隊形を整えて進んで行く，本船団は独航船の装備は全船団中一番下位で，通称オンボロ船団と呼ばれている。船足も8哩がせい一杯という所，快適な航行とはいい切れない，函館山も次第に小さくなつて，ようやく出港してしまつたのだと諦めに似た感じと共に陸上でのわずらわしさから開放され，やれやれといつた安堵の感をいだく，港に停泊しているときと違つて，大きくゆれる，何んとなく頭が重い感じがする。甲板上ではもう作業員が，母船のマストの上にあげられた旗はおろされ，戦斗準備に取りかかる……翌朝眼がさめて見ると，北海道の山々も全く見えない，一面大海原を眺めたときのやるせない，あの気持，ふと脳裏をかすめるワイフや子供，オカでの様々な出来事等……出港後2日目というのに朝から作業の準備に取りかかる，甲板上では厚い板で独航船から，漁獲物を受け取る数取り台や，枡目に仕切つた魚置場を作る作業が進められる。罐詰工場，冷凍工場の方も機械の取りつけ作業が行われる，一方事業部の方では，先発独航船から刻々と海況の状況が入電される。操業場所の決定に連日の資料の分析行が行われている。

いよいよ時化に遭偶する。オンボロ船団にも機関故障船が出る護衛船E丸に曳船させる。こうなると我が輩の仕事がふえて来る。監視船A丸に状況を報告する，出港後6日目には4隻の独航船の油補給を行つた。漁場到着迄あと2日最後の追込みだ。5月8日ついに50°—0'8 N 169°—15E の地点において初投網と決定，独航船もどうやらついて来る。途中調査船の故障とN丸から無事病人（盲腸）を母船に移し，手術を終えた等の二，三の事故もあつたが，全船漁場についたのは喜ばしい限りです。母船はすつかり準備も整え，何時でも魚が揚げるばかりになつている。

このように函館出港と同時に戦斗が開始されているわけです。

船内案内……

船に乗つた経験は発動機船と連絡船しか乗つた事がない，私にとつては約6,000トンの船ともなれば，やはり大きい，時化に遭つたときは，ともかくとして波静かな洋上では，余り揺れも感じない位だ。これも大分船になれて来たせいによるかも知れません。ここで船内案内等というお題目を並べて見たもののどれ程紹介出来るか疑問で，甚だ自信のない所で筆を進めましよう。何処の町へ行つてもチヨットした通りや繁華街を○○銀座街と呼ばれるのが普通である。船においてもこの種に相当する区域がある。あえて名でもつけるならT丸銀座街とでもいうべき呼名がある。この地区は本船では，つまり船首の方のブリッヂの一角を指して銀座街といつている。この一角は船の高層建築の部分で4階建を数え，その上に屋上迄が設備されている。それにこの一角は，船団幹部等のオエラ方が殆んど住んでいる。4階はブリッヂとすべての連絡情報をキヤッチする無線室と独航船の誘導命令を行つている司令室とが主な建物である。何んといつても全機能の中軸をなしている部分である。したがつてこの地区の連中は，銀座人種とでもいつた方が適切でしよう。それだけにチヨット肩苦しい連中で少々ヨソ行きといつた感じの所です。サロンメスルームはこの建物の2階である。サロンといつても女気の方は爪の垢程もない。このサロンは我々に三度の食事を与えて呉れる。サロンの食事はいわゆる銀座族の人達と一緒であるが，大体食事は定刻にドラが鳴るドラは朝，昼，夕それぞれ7時半11時半16時半に鳴らされるが，このドラの音によつて連中がサロンに集つて来る。勿論席は決つているので勝手，に席を取る事はゆるされない。自分の席に腰を下すと，目の前に中味のもられた茶碗皿が待つている。ボーイの給仕で早速口に運ぶ，われわれのように気ままな生活を続けて来た連中が，一足飛びに，船のオエラ方に囲まれて食事するので，少々かた苦しさはあつても食事はうまい，朝は大低鮭の頭の焼いたのとミソ汁といつた，我が家庭なみの食事です。北洋に来て鮭鱒の切れ身が余り食えなかつたのは，意外であつた。時々食わして戴く鮭は余



り味が良くない。鮭鱒の味の良い事をいつたら何んといつても，河に入つたばかりのがうまいようです。北洋のベテランの連中でも今では，河に入つた鮭鱒の味は知らないでしよう。河に入つた鮭鱒魚の甘味を知つているのは，北海道子位のものでしよう。

昼食は冷凍された魚（鮭鱒以外の市販されているあらゆる魚）類が多く夕食は肉類等のオカズが多い。ざつとこんな食事でも，毎週日曜日はお酒が出る。サロンテーブルには洋食か，スキヤキというほほえましい情景もある。その他 1,000 屯，2,000 屯……の漁獲祝には，ちよつとサラリーマンには食えないような，高級洋食にアルコール分が当る又毎月15日には船の方から特別サービスとしてゼンザイ，オハギ等，甘党，カラ党，共に楽しむ事が出来る。勿論女気のないサロンの話題はY談に話をはずませている事はいうまでもない。話しも大分食う方の横路にそれたので又よりをもどして筆を進めましよう。

只今は船の前部を紹介したが，今度は先に紹介した銀座街に比べて，庶民的な一角がある。しいて名をつければ，浅草街といつた所です。この一角は船の部分をさしていうと，船尾の部分である建物自体も船首に比べて高くない。地上2階である。2階は監督官，機関長，（チヨフサー）ドクター，フアスト，セカンドの各エンジニヤ，司厨長等が住んで居る，主な施設としては病院，無線修理室，鉄工場等が主なものである。1階は大部分エンジニヤの連中の住居でしめている。その他作業員の食道料理場，風呂炊事用，冷蔵庫等がある。この部分の地下2階以下は船の心臓部である機関部がある。函館出港以来3ヶ月エンジンの躍動を続けている。この部分の一部に作業員の室となつている。この室の連中は若い年令層が多いので，にぎやかだ。室はエンジンルームに近いので，むつとする程強烈な悪臭がする。この連中は，熱いせいか，風呂え入る時はノオーパンツです。風呂え入つてからは，異体の知れない行為で，さわぎたてている。この一角は漁期間中中積船で運ばれた流感で，病原菌の温床と化し，余り空気は良くない。都会育ちの人間様では一日も生活出来ないでしよう。せいぜい津軽，秋田の神様（ヤンシュウ）向きの住いです。このような悪い点ばかり紹

介致しましたが，この一角にも銀座人種がいないわけでもない。先に述べたように，チョフサー，ファストセカンドエンジニヤ，ドクター，監督官は銀座人種といつても良いでしよう。ドラの音を聞いてサロン，メスルームとつめかける連中である。これで甲板上のものは一通り紹介しましたので，デッキより下の地下鉄街と呼ばれる地域をお知らせしましよう。地下鉄に入ると何にか，ほこりつぽいムットする感じがするが，本船の地下1～2階は強烈にムットする。地下1階は船尾の方は罐詰工場で中央部は冷凍工場，船首の部分は塩蔵場に別れている。この地帯はまあ工場街といつた方が適当な言葉でしよう。地下2～3階は罐詰倉庫，冷凍倉庫，塩蔵庫よりなつてこの地帯は倉庫街呼とばれている。

最後に温泉街を案内致しましよう。本船には，銀座街に1個所浅草街に2個所の温泉街がある。温泉といつても決して町の温泉を想像してはいけません。一般にいう所の風呂である。只ここで北洋温泉と名づけたのは，湯舟の湯が海水でこれに蒸気を通して湯にするわけで，成分は殆んど塩分温泉と変らない。気分だけでも函館の湯の川温泉といつた所です？

毎日一日の仕事のつかれと垢をこの湯に入つて落すわけであるが，チヨットばかり塩分の強いのが気にかかるが，良くあつたまる事は，湯の川温泉以上です。何時もながら温泉に入つた後は，デッキに出て汗せ止めです温泉の効果の方はドンナものか疑問です？恐らく効き目の方は恋の病以外は良く効く事しでよう。女気のない船では草津の湯でもない限りどうにも致し方ないでしよう。

船内のお嬢さん……

船内のお嬢さんといつても，人間の♀ではありません。工船の色気のない事はいうまでもないが，船内で棲息している♀という名のつくものでは，アブラムシの♀位です。その他しいていえば母船に独航船より揚げられる鮭の♀といるか，鯨の♀が見られる位のものです。♀といつてもどのものを見ても，人間様には興味のうすいものばかりです。したがつて色気のない船内では必然的にY談になるのも止むを得ない現象です。その点ベーリング海で時々出会うソ聯のキャチャボートは，人間様の♀が乗つているので，うらやましい。遠くで鯨を追つているソ聯のキャチャボートに出会うと早速母船のブリッジに上つて望遠鏡をのぞくのが何よりの楽しみです色気のない単調な生活の慰めの一つです。話しは，横路にそれましたがここで皆さんにおめにかけたいのは，アブラムシの♀と鯨の♀です。アブラムシは船内で見られる愛嬌者です就寝中や執務中に時々やつて来ます。女気のない船内にアブラムシの♀共のみが棲息していると思えば可愛ものです。食い残しの駄菓子を机の上に置くと多数寄つて来る。ひまじんの我輩等のマスコット的な存在です。次に鯨の♀についてふれて見ましよう。北洋で見られる動物では鯨，アザラシ，オットセイ等が主なもので母船の側に時々やつて来る。私も潮を吹き

ながら遊泳している鯨を三度程見た。この鯨は北洋鮭鱒漁業のきらわれものです。時々独航船の張りめぐらせた網にひつかかつて，網に甚大な被害を与える。本船団では鯨の被害による流網全反行え不明の事故が4件あつた。何にしろ1反2万円もする網が350反位が一辺に無くなるのですから大へんです。金額にしたら莫大な損害になります。本船の被害を北洋捕鯨に出漁中のK船団に連絡した所，6月13日早朝母船の側を通過探鯨を行つた事もあります。

鯨が網にかかつた場合全部が被害受けるとは限りません。時折網に被害を与えて来れない小鯨がかかる事がある。一度鯨の♀の子が独航船より母船にあげられた事がある。早速料理と決まつて作業員も大喜び，久しぶりに珍らしいものの来船とあつて，記念写真を取るもの鯨の局部にさわつて喜んで居るもの，急がしい中にも笑いの風景が見られた。いよいよ解体となりましたが，本船には南鯨母船の作業員が居りましたので，簡単に処理された。久しぶりに捕乳動物の♀にあつたもので，もの珍らしさの余り作業員のS君が，鯨の局部をもぎ取つて皆んなで大はしやぎ，このシロモノを船の片隅に置いて，誰も彼も良く見て鯨の局部とわかると，ニンマリといつた所です……これも北洋母船での笑いの一コマです。

ガス（霧）と時化……

北洋と言えばまず脳裏に浮いて来る事は時化とガスである。したがつて北洋の話しの始じまりは，時化とガスの事から始まる事が普通である。ガスといつても嗅気のある瓦斯の意味ではありません。ガス（ガァス）というのは一般に浜衆の言葉で霧の事を言うのである。函館の港を出て二昼夜根室沖からそろそろガスに見舞れる，北洋ではガスは北程濃厚である本船で一番ひどかつたガスにであつたのは，切揚げ近くに遭遇したコマンドルスキー島の北側が濃厚であつた。ガスで一番心配な事は船の衝突事故で，現在のようにレーダー方向探知機等の機械が発達している今日では余り心配ない。それでも独航船が漁獲物を積んで帰つて来て，母船の位置を早く知らせるため，母船の汽笛を5分毎に鳴らして衝突事故等を防止するのが常道である。船が濃霧におそわれて5分毎に鳴らす霧笛を聞くと出港時の

事が思い出され，ホームシックに取りつかられる。このガスの厄介もののお蔭で，北洋では満足に太陽の顔を眺める事が出来ません。出港以来切揚げ迄に太陽の顔を拝見出来ましたのは期間を通じて12日位ありました。顔の拝見時間も，せいぜい長くて2～3時間位のものです。北洋の海が概して寒く感ぜられるのは，濃霧におそわれる期間が長く，太陽光線にめぐまれない事にもよるようです。現地で観測したものを見ますと気温の最低は3.0°（5月11日）最高は11.0°（7月18日）を示し之を北海道の気温に比べて大体10°位低いようです。北洋でガスの一番強い時期は5月で，北海道でそろそろ桜の花が咲く頃でも，時々ガス雨のような日和が多く非常に寒く感ぜられる。それが更にミゾレに変る事が多々有ります。そのミゾレも意地の悪い事に魚体測定等の仕事の時間をみ計らつてやつて来られるのには閉口です。北洋の海もガス日和がもう少し少なかつたらまだ暖く住み良い所でしよう。

北洋から帰つて私は色が白くなつてアカヌケタ等とひやかされたが，これも止むを得ない事でしよう。オカにいて，せいぜい色白になりたいお方は北洋行きをお進め致します。良い美容法の一つです。

次に北洋の時化ですが，北洋は低気圧の墓場ともいわれている程，時化早い，今年は相憎大きな時化はありませんでしたが，それでも5月中は風力6以上が9日を数え休漁日も4日程を数えた。こんな時化の日は酔い気分で頭の具合が，はつきりしません。船酔い気分の時は片足でも良いから陸に置き度い気持が致します。全般的に今年の北洋の天候を見ますと，例年に比べて時化の日は少く，非常に好天にめぐまれた方です。今年の豊漁にめぐまれた原因は一つは好天にめぐまれた事にも影響している。

もともと時化気味だと網に魚がかからないのは，波浪の為め，鮭鱒の餌料であるプランクトンが垂直移動する為めで，魚も自然波浪の影響のない下層えと移動する。又独航船の張られた網の足が軽く波浪の力によつて，あの長い網が棒状に巻きついて，魚がかからない状態となり，漁獲能力を著るしく低下させる事になる。この状態を北洋では棒巻きと呼んでいる。母船では独航船の棒巻きした網をほどいてやる余分の仕事が増えるので，北洋では時化の時の棒巻き防止が重要な課題となつている。以上は時化の網に対するいたずらであるが，例年なら時化による独航船の転覆事故で，列年なら10数隻が沈没約200名の人命をうばつているが，今年は船の装備も良くなつた上に，大きな時化に遭遇しなかつたので，沈没事故は二隻にとどまつたという。好成績を収めた，割当ノルマも予定より約1カ月も早く漁獲切り揚げた。（続く）

写真説明

頁	14. P.	出港風景
〃	15. P.	筆者の窓から見た銀座街
〃	16. P.	罐詰工場風景
〃	18. P.	船団航行風景